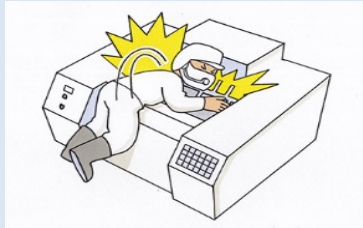


業務フロー・コスト分析における 業務改善検討について (厚生労働省・労災診療費審査業務)

平成29年2月20日
概要説明資料

労災診療費の仕組み

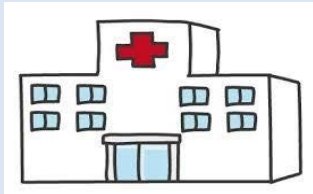


受診

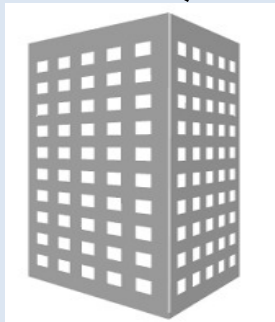
療養の
給付請求書

「療養の給付請求書」を労災
指定医療機関へ提出
(初回のみ)

労災保険指定医療機関



支払



厚生労働本省

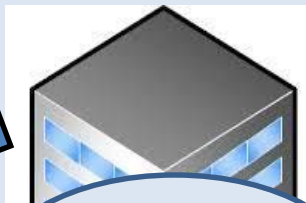
業務フローコスト分析対象事業

労災診療費請求書・明細書(レセプト)、療養の給付
請求書を労働局へ提出【原則10日まで】

診療費請求書
・明細書
(レセプト)

療養の
給付請求書

データ登録



労災診療費
の審査点検
都道府県労働局

労働基準監督署

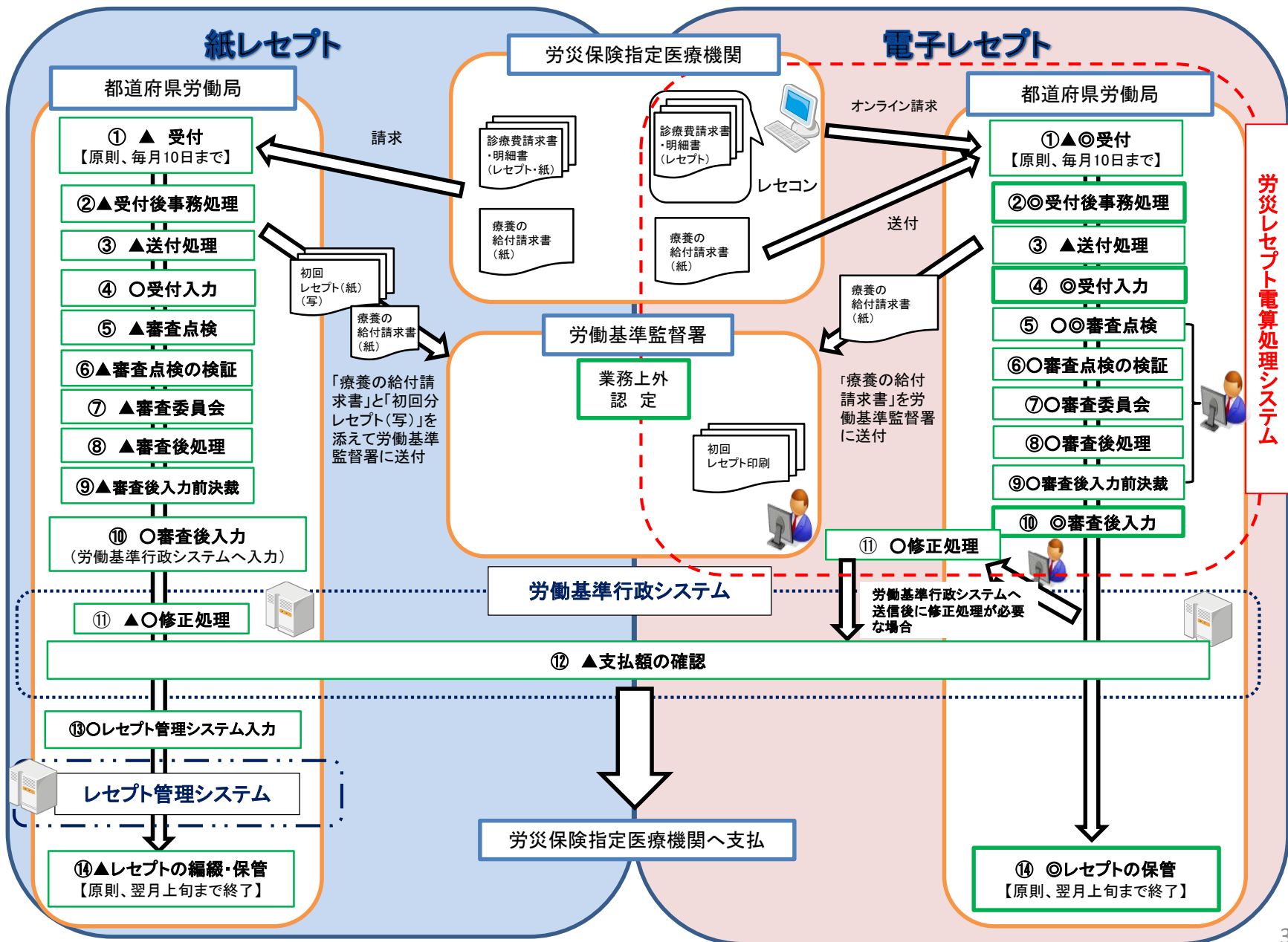


労災保険の
業務上外の
決定

療養の
給付請求書

療養の給付請求書を
労働基準監督署へ送付

審査点検業務の流れ・事務区分(紙レセプトと電子レセプトの比較)



(注) 表中の◎印は主にシステム処理によるもの、○印は端末操作によるもの、▲印は手作業によるものを表す。

業務フロー・コスト分析 分析結果①

1 業務フロー・コスト分析の実施概要

実施労働局：神奈川労働局・愛知労働局※1

実施期間：平成28年11月※2

実施内容：紙レセプトと電子レセプトの処理に要した時間を事務区分毎に計測

※1 神奈川労働局・愛知労働局を選定した理由

事務処理における地域差の有無等を把握するため、異なる地域で同規模の神奈川労働局と愛知労働局を選定した。

(参考)年間レセプト取扱枚数(平成27年度)

神奈川労働局：約157千枚(全国に占める割合6.1%)

愛知労働局：約138千枚(全国に占める割合5.4%)

※2 全国の労働局において、レセプトの受付から編綴まで、原則約1か月以内で処理していることから、1か月測定した。

表1 レセプト取扱枚数(局別)
(平成28年11月)

(単位:枚)

	神奈川	愛知
紙レセプト	11,449	9,894
電子レセプト	2,005	964

表2 電子レセプト普及率(局別)
(平成28年11月現在)

神奈川	愛知
14.9 %	8.9 %

業務フロー・コスト分析 分析結果②

2 業務フロー・コスト分析の実施結果(レセプト1枚あたりの平均処理時間)

- ・ 電子レセプトが紙レセプトより多くの時間を費やしていたことが判明した。
- ・ 紙レセプトと電子レセプトとも、愛知労働局が神奈川労働局より多くの時間を費やしていたことが判明した。

図1 レセプト1枚あたりの平均処理時間(局別、紙・電子別)

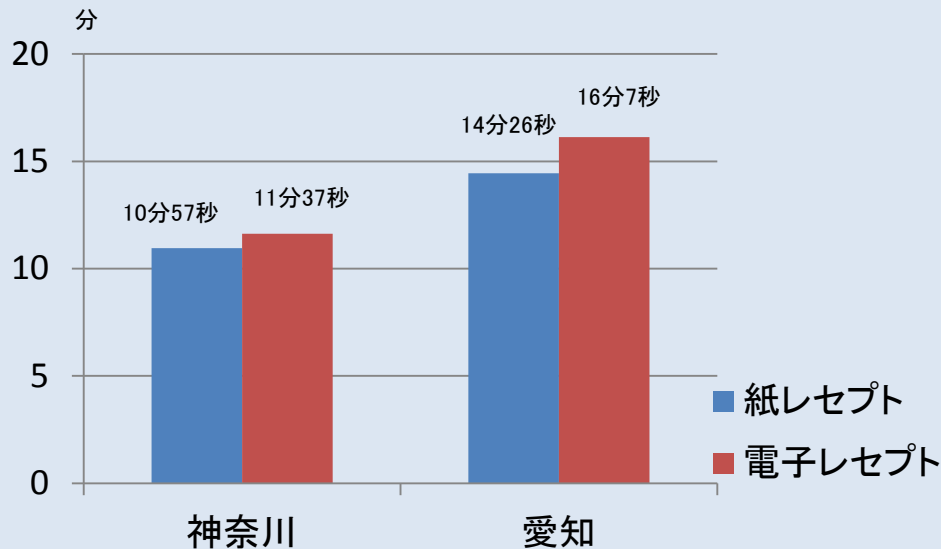


表3 レセプト1枚あたりの平均処理コスト(局別、紙・電子別)

(単位:円)

	神奈川	愛知
紙レセプト	302	404
電子レセプト	342	456

表4 非常勤職員1人あたりの平均処理枚数(局別、紙・電子別)

(単位:枚)

	神奈川	愛知
紙レセプト	545	450
電子レセプト	95	44
(参考) 非常勤職員数	21人	22人

業務フロー・コスト分析 分析結果③

3 分析結果(1)

○ 電子レセプトが紙レセプトより多くの時間を費やしていたことの要因としては、次のことが考えられる。

- ・ 電子レセプトの審査点検では、システムにて多岐にわたる審査項目を自動点検(算定要件の点検、過去(最大1年分)の診療状況を踏まえた点検等)の処理が行われているため、紙レセプトの審査点検に比して、確認項目が多く、処理に時間を要していること。
- ・ 審査点検の対象は、紙レセプトが大半を占めているため、電子レセプトについても、システムの画面上ではなく、紙に印刷した上で事務処理を行っている状況が一部見受けられること。

表5 レセプト1枚あたりの平均処理時間
(局別、紙・電子別、事務区分別)

事務区分	神奈川			愛知		
	紙(A)	電子(B)	差(B-A)	紙(C)	電子(D)	差(D-C)
◎ ②受付後事務処理	28秒	5秒	▲ 23秒	20秒	26秒	6秒
◎ ④受付入力	40秒	2秒	▲ 38秒	35秒	10秒	▲ 25秒
◎ ⑩審査後入力 (労働基準行政システムへ入力)	1分13秒	1秒	▲1分12秒	58秒	7秒	▲ 51秒
⑬レセプト管理システム入力	14秒	0秒	▲ 14秒	20秒	0秒	▲ 20秒
◎ ⑭レセプト編綴・保管	5秒	0秒	▲ 5秒	15秒	0秒	▲ 15秒
上記以外(①、③、⑤～⑨、⑪、⑫)の計	8分17秒	11分29秒	3分12秒	11分58秒	15分24秒	3分26秒
うち ⑤審査点検	3分22秒	5分41秒	2分19秒	4分19秒	7分11秒	2分52秒
合計	10分57秒	11分37秒	40秒	14分26秒	16分7秒	1分41秒

※ 事務区分欄の◎:電子レセプトの事務処理がシステムによる自動処理

業務フロー・コスト分析 分析結果④

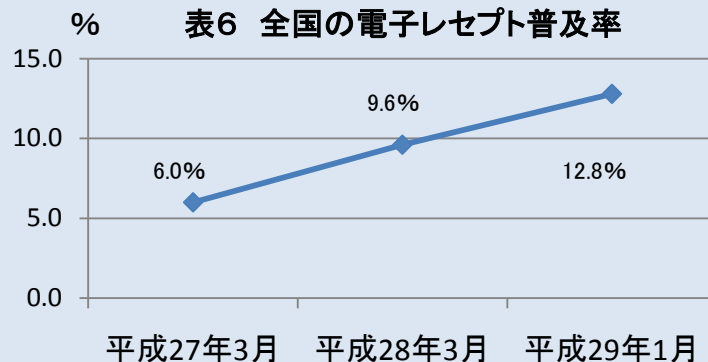
一方で、

- ・ 電子レセプトの事務処理がシステムによる自動化等により、処理時間が短縮されている事務区分がある。
 - ・ 今後、電子レセプトの普及が進み、システムを利用した事務処理が中心になれば、紙に印刷して処理することはなくなり、電子レセプトの処理時間の短縮が見込まれる。
 - ・ 電子レセプトの審査点検は、システムにて自動点検の処理が行われているため、全ての電子レセプトに対して、精度が高く、統一的な確認等が行われている。
- 等から、電子レセプト化を進めることは、事務処理の効率化、審査点検の精度の向上に十分に効果があるものと認められる。



→ 電子レセプト化をさらに進めるため、電子レセプト請求の普及への取り組みを積極的に行う必要がある。

→ 電子レセプト請求の普及に併せて電子レセプトの審査業務における利便性向上のための検討を行う必要がある。



目標：70%
(普及の取り組みにより、普及率は年々上昇)

<電子レセプト化>

平成17年12月1日付け医療制度改革大綱(政府・与党医療改革協議会)において、「医療機関等が審査支払機関に提出するレセプトについて、平成18年度からオンライン化を進め、平成23年度当初から、原則としてすべてのレセプトがオンラインで提出されるものとする。」とされた。

この方針により健保・国保は平成19年4月よりオンラインシステム(電子レセプト化)を稼働し、労災レセプトにおいても、この状況を踏まえてシステム開発を行い、平成26年2月から労災レセプト電算処理システムを稼働した。

業務フロー・コスト分析 分析結果⑤

3 分析結果(2)

○ 愛知労働局が神奈川労働局より多くの時間を費やしていたことの要因としては、次のことが考えられる。

- ・ 愛知労働局では、神奈川労働局より電子レセプトを紙に印刷する枚数が多いこと。
- ・ 愛知労働局では、勤続年数の短い非常勤職員が多いため、事務処理に時間を要していること。
- ・ 勤続年数の長い非常勤職員は、勤続年数の短い非常勤職員に対し事務処理を補助、指導しながら事務処理を行っているため、事務処理に時間を要していること。

表7 労災診療費審査点検に係る非常勤職員の勤続年数(局別)

基準日:H28.11.1

勤続年数	神奈川局	愛知局
3年以上	18人	12人
1年以上3年未満	3人	3人
1年未満	0人	7人
	21人	22人



- 審査する委員がシステムを積極的に活用できるよう、電子レセプトの審査業務における利便性向上のための検討を行う必要がある。
- 審査点検業務を遂行するためには、労災診療費算定基準の解釈、労災保険制度等の専門的知識が求められることから、担当する非常勤職員に対し、これらの労災診療費の審査点検に必要な知識や技術の習得、向上させることを目的とした研修を実施する必要がある。

業務フロー・コスト分析 分析結果⑥

4 講じる措置

- 労災レセプト請求件数が多い電子レセプト未導入の労災保険指定医療機関に対し重点的に利用勧奨を行う、訪問等の結果、導入に関心があった労災保険指定医療機関に対しフォローアップを行うなど普及促進の取り組みをさらに強化する。
- 電子レセプト請求の普及に併せて、審査委員、非常勤職員等からの具体的な改善要望を踏まえた端末操作の簡略化など利便性向上のための方策の検討を行う。
- 非常勤職員に対する研修のカリキュラム等をさらに充実を図り、能力向上に努める。

5 期待される効果

- 電子レセプトの普及拡大、審査事務の利便性が向上した場合には、非常勤職員の業務処理時間の短縮が見込まれる。
- 電子レセプトの普及拡大によって、システムにより審査点検されるレセプトが増加すると、審査視点の統一化が図られ、審査点検の精度の向上が見込まれる。
- 非常勤職員に対する研修を充実し、専門性の向上を図ることにより、局間の事務処理時間の差異が解消し、平準化が見込まれる。